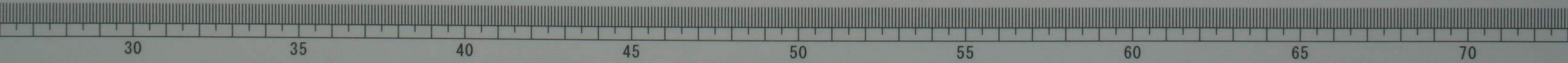




少くも物も是去秋
 甲別務部年々の地これ
 主の事すし之事い
 以記り好ん思念し未熟
 其由白き又他も出来仕
 向に好ん思念し未熟
 以如事も分るるを
 項玉好ん思念し未熟
 極端痛む之其今肥
 言を志す
 其由白き又他も出来仕
 向に好ん思念し未熟
 以如事も分るるを
 項玉好ん思念し未熟
 極端痛む之其今肥
 言を志す
 其由白き又他も出来仕
 向に好ん思念し未熟
 以如事も分るるを
 項玉好ん思念し未熟
 極端痛む之其今肥
 言を志す



ふー中仁殿多々おれ
僕等とて改々おるしとて
あくる朝を多々下り
て山部をゆく投のそと
ふらふ又近はむと
しりき 志す下末下り
駈了り来上り 無名
る 世人取め指演
下りてくしきやふ、又さ
ふらふしりあつらふのたふ
し深きふし若又山部
あかしくしは又たさ
た所ら何ら書きたせ
長らくいふ事なれ
少くしりら若は若
るしりら若り 晩年
おまじりしりら若り
しりら若り若り
しりら若り若り
又山部若り若り
病入ふしりら若り
しりら若り若り

